

歴史に培った伝統芸能を披露

第4回北秋田市民俗芸能大会

北秋田市民俗芸能大会が10月4日、市文化会館で開催され、満場の観衆が歴史に培った伝統芸能の数々を楽しみました。市内で演じられている芸能を一堂に集めて市民に公開し、民俗芸能への理解と関心を深め、保存・伝承につなげることを目的として開催されてきました。4回目を迎える今年の大会には、各地区から映像を含め6団体が出演しました。

オープニングで登場したのは、昭和49年に秋田県無形民俗文化財に指定されている「猿倉人形芝居」。その源流は文楽人形と同系統といわれていますが、都会で発展した文楽とは異なり、民衆の間で生活娯楽として親しまれた素朴な人形芝居で、明治・大正期を通じて関東から東北、北海道を巡演し、全盛を誇りました。今回は、片手の人形をすばやく他の手に投げかける早業が特徴の「鬼神の尾松」と、リズムカルな三味線の音にのって軽快な手さばきを見せる「貫鉄和尚笠踊り」が上演されました。

2番手に登場したのは、太田連合子供会による「太田番楽」。太田の神職である法楽院峰紹が、京都に遊学した際に、神

学と能楽を混ぜて創案したと伝えられています。後継者不足のため近年演じられませんが、伝統が途絶えることを危惧した保存会の皆さんが地域の子供会に働きかけ、子供会により継承されているもので、今回は番楽裏舞の「壇の浦」が上演されました。

3番手に登場したのは、比立内獅子踊り保存会による「駒踊り」。米代川、阿仁川流域の集落には、共通した流れを汲む獅子や駒踊り、奴踊りといった芸能が伝えられています。これらは、佐竹義宣侯が常陸から秋田へ国替えを命じられたときに、主君や武将の士気を鼓舞するために演じられた道中芸がルーツとされています。比立内獅子踊りは、参勤交代

を模した行列、奴、駒、獅子踊りなどで構成され、駒踊りは、徳川家康の長男、岡崎城主三郎家康の出陣、乱戦などの場面を芸能化したものといわれ、踊りは獅子、駒、棒など数種類の踊りで構成されますが、今回は「駒踊り」の上演となりました。

ステージでは、合戦で戦う騎馬の様子を表現したといわれる勇壮な踊りを6人の駒が舞台狭しと熱演し、観衆を魅了しました。

4番手は、鷹巣南小学校の児童による「七日市奴踊り」と「上舟木駒踊り」。地区住民の指導を受けながら学校行事で継承してきました。「上舟木駒踊り」は竜森小学校で引き継がれてきたもので、4月の学校統合により鷹巣南小学校で継承

されることになりました。

このほか、近隣の獅子踊りと同様の由来をもち、毎年お盆に集落の神社に奉納する踊りの最後に、獅子納めの儀式を行ない、翌年まで獅子踊りの真似ことも禁じられる「浦田獅子踊り」は、記録映像を披露。続いて、藩政時代からお盆になると村の若衆たちが集まり、「厄除け獅子」を主体にして大名行列の姿を真似た「奴踊り」を演じたことが始まりで、有名な五ご義民ぎみんの霊を慰めるために墓前で演じられるようになったともいわれる、坊沢獅子踊りが披露されました。

各地区から訪れた満場の観衆は、郷土色豊かな伝統芸能の数々をたっぷり堪能しました。



▲【猿倉人形芝居】池田与八が文楽を基礎に創案した人形芝居、写真は「貫鉄和尚笠踊り」



▲【太田番楽】太田の神職である法楽院峰紹が京都に遊学した際に、神学と能楽を混ぜて創案した伝えられ、今では地区子供会で継承されています。演目は太田番楽裏舞「壇の浦」



▲【上舟木駒踊り】先祖代々の霊を慰めるための盆踊りとされます。▶【七日市奴踊り】鎌倉時代に明利又にいた浅利家の家来たちの楽しみとして始まった踊りとされます。駒踊りは竜森小、奴踊りは鷹巣南小の学校行事で継承されてきました。



【比立内獅子踊り(演目は駒踊り)】非常に動きの激しい比立内獅子踊り保存会の「駒踊り」。明治時代初期に伝習されたと言われ、現在は比立内青年会が中心となって保存、伝承に努めています。



奴踊り



棒使い



坊沢獅子踊り

◀ ▼ 【坊沢獅子踊り】今から約300年前の藩政時代、「厄除け獅子」を主体に、大名行列の様子を模した奴踊りを演じたことが起源とされています。